

月刊 おかじょうき

おもしろ

<http://www.okajoki.com/>

D511
No. 511

2025

2

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	7
■例月句会結果■	
おかじょうき川柳社 1月例句会	19
十和田たてがみ川柳会 12月句会報	25
川柳吟行会「ぼ」	28
Infomation	32～

カンテラ

おろし

この号は、予告通り印刷物として発行されません。おなじょうき川柳社のウェブサイトにある「電子柳誌」でご覧戴いていると思います。

皆様、おなじょうき電子柳誌をよろしくお願ひします。

それでは、カンテラに明かりを点しましょう。

A群

くよくよを水三杯でながしこむ

村上てる

スッキリと身軽になつて雪おんな

まみどり

雪野原 飲み込むものが何もない

夏草ふぶぎ

フランスの LE CREUSET 社が作る特殊な複数層ホーロー加工の鍋などで、熱が逃げにくく、焦げにくく、材料を入れても温度が下がりにくいことで有名です。わが家にも一つありますが、とんでもなく重いので出番があまりありません。そんな高級鍋で、妙さんは「面倒」を煮込むのですか。ここごとと長い時間煮ると「面倒」はどうなるのでしょうか。

B群

さよならをするためだったミルクティー

葉閑女

パソコンを開いてこの世から逃げる

斎藤泰子

ゆうやけになろうか青空になろうか

守田啓子

君もそう多分知ってる空の飛び方

須藤しのすけ

カラマツフ家族そろそろ冬の街

金瀬達雄

あしらっているのは春の甘い指

米山明日歌

返信のドガの踊り子ピルエット

吉見恵子

少し蒼色ませて未来予想図

柳本恵子

柳本恵子さん、見事な破調ですね(笑)「蒼」は「青」

ドロドロに溶けて流れる前頭葉

村上あつこ

手の甲の皺から父が浮いてくる

三浦蒼鬼

三回忌星に電話をかけてみる

辻井洋子

これからは肩甲骨も育てなきや

熊谷冬鼓

観客はひとりもないワンマンショー

まきこ

世界樹のあなたと葦のわたくしと

嵯峨山登

しなやかに女一人の泣く余力

一帆

雪はふうわり何もなかったことにして

吉田州花

面倒を煮込むつもりル・クルーゼ

峯島 妙

峯島妙さん、「ル・クルーゼ」の鍋を持っているんですね。ル・クルーゼ(フランス語:LE CREUSET)は、

や「碧」と違うんですよね。広辞苑を引いたら『一般には「青」。くすんだあお色や血の気のないあお色には「蒼」、浅緑色から濃青緑色では「碧」も使う。』とありました。恵子さんの「未来予想図」にまぜる「蒼色」は、ほんの少しが良さそう。

C群

あつちについてワタシの涙なんだから

芝岡かんえもん

いつかAIも愛されたいと泣くのかな

きさらぎ彼句吾

地吹雪の中から戦車現われる

小野五郎

追伸に黒酢を回しかけますね

岩根彰子

芝岡かんえもんさん、この「涙」って、かんえもんさんの目から出ている「涙」なの？かんえもんさんのことだから、そうではなくて、美女Aさん、あるいは才女Bさんの「涙」を「あれはワタシの涙です」なんて言っているような気がします。うーん、どっちだろう。

きさらぎ彼句吾さん、「AI」ってチャットGPTとかの人工知能(artificial intelligence)のことですよね。

今の「AI」はやたらに賢いって言うから、あと少ししたらこの句のようになつたりするかもね。それにしても、不思議なことを考えますね。

小野五郎さん、これは大変ですよ！普通の道路や野原に「戦車」が出て「何だ！」と騒ぐはずなのに、「地吹雪の中から」「現れ」たらこれはもう仰天！どうすればいいか分からなくなってしまう。もしかして、この「地吹雪」は比喻で、実は五郎さんのことじゃないでしょうかね（笑）

岩根彰子さん、あの、これ、お、も、し、ろ、い、です。「黒酢」って、広辞苑に『くるくず【黒酢】①コンブまたはシイタケを黒焼にしたものをすりつぶして酢を加えた加減酢。刺身・膾（なます）などにかけて用いる。②米酢の一種で、アミノ酸を多く含み、味がまろやかな褐色の酢。陶器の壺に入れて仕込み、長期間発酵・熟成させて作る。』と出てくるあれですよ。本文じゃなく、「追伸」に「回しかけ」たらどんな手紙になるんでしょう。彰子さん、「追伸」を食べちゃうのかな…。

■おかじょうき川柳社 会員登録しませんか？

おかじょうき川柳社会員登録希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

【会員特典】

- 月例会や会員雑詠集「無人駅」に投句できます！
- 川柳データベースに作品が掲載されます！
- 当柳社が主催する誌上句会等が参加費無料になります！
- 青森の美味しい特産品がたまにもらえます！ etc.

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名：おかじょうき川柳社
→会費：4,000円（1年分）

おかじょうき川柳社会員雑詠集

無人駅

★無人駅1月月間賞

とりあえずこむら返りと話し合う

辻井洋子

宮井いずみ【みやいずみ・大阪府大阪市】

鉛細工のふくろう渦を連れてくる
くるみ釘と一筆書きのことば
金モールの端がはがれて黄昏で
仙骨のぴんくの黴をどうしよう
打ち上げの締にがらがら蛇がいる

先月号の
お気に入り

曇天の少し不安な心地良さ 戒 踊兵
ピーカンより曇天のほつがしっくりくることあります。

村井規子【むらいのりこ・青森県大鰐町】

歩くつて凄いや腰が喜ぶよ
スキー場よごめん雪は要らないよ
冬の季語ふわり竹内まりやから
雪になる前にと教授お帰りに
雨の向こうまで明日の欠片持ち走る

先月号の
お気に入り

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

今夜また底なし沼に落ちていく
ドロドロに溶けて流れる前頭葉
格好悪いところも見せて生きてきた
どこで道を間違えたのか迷子です
呆けてきた後期高齢ケセラセラ

先月号の
お気に入り

今日の鬱ハイターにつけてとる 村上てる
鬱陶しい鬱はハイターで漂白しちゃうんですね

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

雨だれのコトバのこして師は空へ
りんごむく今日を振りむく指の先
くよくよを水三杯でながしこむ
落葉ふむまたくる秋を願いつつ
秋深く落葉の中に青い空

先月号の
お気に入り

許可しないあなたの旅立ち許可しない まきこ
私も許可しないと言いましたが夫は旅立ちました。私を
待ってる事と思えます

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

ゆうやけになろうか青空になろうか
白菜のように抱かれてゆく図式
サラダ菜で母を包んで咀嚼せよ
非常口らしくハウレンソウ植える
肩車から見えていた現在

先月号の
お気に入り

穴が空いている 直し方わからん 芝岡かんえもん
私は毎日穴を数えてから寝るのが日課です。

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

幻想論すべてを消して雪つもる
春隣アリスのお茶会さそわれて
少し蒼色まぜて未来予想図
消極的いい人がする愛想笑い
和牛A5にブラックジョークひとつかみ

先月号の
お気に入り

こんな小石に泣くな あたし 一帆
小石 中石 大石 毎日けつまずいていきます

葉 閑女【ようかんによ・青森県青森市】

本命はいない仲好しチョコばかり
風邪だって「風邪引かないで」と言いながら
アスパムからドーンと上がる法螺話
古典講読土佐日記から始めよう
さよならをするためだったミルクティー

先月号の
お気に入り

太陽も月も私の味方です 須藤しんのすけ
昼も夜もやりたい放題ってことね。

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

メールへの返信葉書のトテチテタ
貝合わせ続く本籍地はここに
殖輪展この素朴さに帰れるか
種を蒔く赤い花とは青い約束
雪はふうわり何もなかったことにして

先月号の
お気に入り

わたくしがゴムの木だった頃の朝 米山明日歌
そんな朝も確かにありましたね

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

らしき死の箝口令は二週間
師が逝つて椿が映える白い雪
金言のイチヨウの中のイチヨウを拾う
返信のドガの踊り子ピルエット
マッチ擦る 師がいなければ誰もいない

先月号の
お気に入り

憎まれ口きいてさみしい花一匁 葉閑女
恋の歌ですね。わかるわかる。鈍感な男だ。

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

辰年も5回も回りや緑青めき
偏らず傾かず寒昂らしく
インフルと闘え愛しき細胞
3度目の逢瀬ここかしこにデジャブ
悲しい夢と花びら雪 寒暁

先月号の
お気に入り

太陽も月も私の味方です 須藤しのぶ
最強ですね！言ったことは実現しますよ、きつと。

米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

誤嚥したままで君へと向かう指
あしらっているのは春の甘い指
深爪の夕日のような佇まい
銃口を捉えたままの朝になる
そして今 指から枯れてゆく寒さ

先月号の
お気に入り

「め」から「ぬ」になったところで落ち着いた 夏草ふぶき
「諦め」から「諦めぬ」ですか。「め」では、落ち着きませんね。

安藤なみ【あんどうなみ・愛知県瀬戸市】

火にかけるキシリトールな肌の色
ワンカップ並べる羽目に同意する
鳥獣戯画だけが残っているこの世
苺の葡萄酒 ワインは許さない
スリッパを履いて寝ていた温かった

先月号の
お気に入り

リバンド以上に育ちすぎている まみどり
それ、わたしです。

帆【いちほ・秋田県秋田市】

抱きしめて撫でられて立つ処刑台
金平糖最後のひとつあみだくじ
朽ちるまで百合の一輪肉体派
しなやかに女一人の泣く余力
罪だなあレモンの香りする別れ

先月号の
お気に入り

どっちつかずが私の今後を聞いてくる 熊谷冬鼓
毎晩問われて疲弊してきました。どうしよう・・・

亥の一【いのいち・青森県青森市】

今日もまた三重丸の雪が降る
脱皮して稲垣えみ子になるつもり
捨てに捨て笠と杖のみ年新
米高騰103万の壁の奥
けの汁と雪に学んだ爆発力

先月号の
お気に入り

有刺鉄線ぐるぐる巻いて人許す 夏草ふぶき
さっそく有刺鉄線を買に行きます

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

腹割つて来はつたくたくな豆苗
追伸に黒酢を回しかけますね
真夜中の信号かなり不整脈
友達の香りでぬるっと居待月
十二月私ボソボソ鬆が入る

先月号の
お気に入り

裸の人に引き出しが付いている 小野五郎
想像しただけで恐面白

戎 踊兵【えびすようへい・青森県外ヶ浜町】

男湯に集まって来る全裸主義
山茶花の赤を咲かせて雪囲い
どの道を辿つても亡父の土手
バス停の酒池肉林は切り倒す
雨露をしのいで海に溺れそう

先月号の
お気に入り

今度こそ帰るうた焼けはピンク 峯島妙
あのピンクは兆し、見たら帰らなくちゃね

奥田悦生【おくだえつお・三重県伊勢市】

ほのかな含み香 亀吉の口当たり
象に踏まれる前に食べる赤福
五十鈴川越えると誰でも神様
眩しい太陽巳年占う初日の出
今日のリセット煙草一服チルタイム

先月号の
お気に入り

遠回りだった 林檎の芯だった
林檎のご縁 おかしよつき
熊谷冬鼓

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

肝臓に棲んでる内部告発者
地吹雪の中から戦車現われる
尿漏れが情報機関で起きている
ギガが不足し冬空に落ちて行く
地下街でひとり咲いてる冬のバラ

先月号の
お気に入り

金瀬達雄【かなせたつお・富山県高岡市】

ベルゼブブの尻尾の先の神の風
彗星が右カーブする開戦日
カラマーズフ家族ぞろぞろ冬の街
生き延びたザムザと食べる冬至粥
長州のラリアットからやり直す

先月号の
お気に入り

淋しくて亡夫の引出あけてみる
村上てる
妻が祖母の桐箆筒を処分するらしい。淋しい。

きさらぎ彼句吾【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

シャンパンとひよいと越えちやう停止線
浮浪雲のプランで生きる千鳥足
ぬる爛に湯豆腐 おぼろ月になる
申し送りされずに霧になりかける
いつかAIも愛されたいと泣くのかな

先月号の
お気に入り

見たいものばかり見ている伊達眼鏡 渡邊こあき
この歳だもの見たいものだけを写したいのよ眼(まなこ)

熊谷冬鼓【くまがいとご・青森県青森市】

これからは肩甲骨も育てなげや
足踏みのままで2月の金魚鉢
それなりにザラメ雪でもそれなりに
なりゆきで重い長靴渡される
百均の枯葉マークでいいですか

先月号の
お気に入り

一徳総啄木 ざっと明細を見る
これって本歌取り？笑わせてもらいました。
Sin

斎藤泰子【さいとうたいこ・秋田県大館市】

ほーほたる遊び尽くして逝くつもり
パソコンを開いてこの世から逃げる
わたくしの形見に言の葉をあげる
愛されていないことにも慣れたけど
方舟を待たせてるからじゃあまたね

先月号の
お気に入り

こんな小石に泣くな あたし 一帆
ぐっと来た。

坂本清乃【さかもときよの・青森県蓬田村】

煮崩れただけでアンコにされちゃった
昨日より笑えることを探してる
葉ザクラの赤持たされた罰ゲーム
表札の曲がり具合で老いを知る
おまじないゴシック体の一人称

先月号の
お気に入り

嵯峨山登【さがやまと・佐賀県大和町】

星ぼしの海に御神酒のひとしづく
天からの一滴わたつみに波紋
水底の星座から来たあなたの瞳
世界樹のあなたと葦のわたくしと
星砂が星になるまでかたわらに

先月号の
お気に入り

こんな小石に泣くな あたし 一帆
コメントするだけ野暮でしょう。

笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

天と地でレクチャーして地震動
姿のない活断層に嫉妬する
猜疑心が燃料棒を縛ってる
一日中雪かきしてる風物詩
天気図にない天気予報を誤報する

先月号の
お気に入り
錠剤をひとつ増やして土俵際
まみどり
ぼくは錠剤をひとつ減らして崖っぷちです

芝岡かんえもん【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

しゃあしゃあと街を歩いている土足
あつちについてワタシの涙なんだから
わかれぎわ円周率の嘘をつく
地平線 シジミの道はわかるまい
昔々の窓を開いてサンマ焼く

先月号の
お気に入り
発情期の町がラッピングされている
小野五郎
面白い発想に脱帽。

須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

魔法できますホウキで空は飛べないけれど
復讐のリズムで寸止め繰り返す
声変わりした少年の叫び声
目を閉じて羊の羽は明日へ向かう
君もそう多分知ってる空の飛び方

先月号の
お気に入り
顔半分欠けた埴輪も走りだす
宮井いずみ
半分になる程の途方もない時間経過と、時間に追われ走り出す多忙さの対比が、笑える程の恐怖とユーモアを感じさせる。

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

大海を知らぬ金魚の得意顔
AIと俺の予感が四つに組む
CMのモデルを目指し飲むサプリ
涙壺ネジが緩んで止まらない
好きだからデイスリたくなるから困る

先月号の
お気に入り
タイムマシンが停車している本能寺
むさし
織田信長が未来から来たとか、本能寺に異世界へ通じる出入口があるとか言われますが、タイムマシンが停車していたなら確実、未来人。

城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市】

夫の七回忌そろそろ籍を抜く
長女との同居は無理と望まない
距離を置く次女から温いメール
お年玉亡母の分まで準備する
孫と遊ぶ体力付けるハイキング

先月号の
お気に入り
その道はカレーとシチューで揺れている
まみどり
揺れていても、自分で決められることはありがたい。

Sin【しん・青森県外ヶ浜町】

今日も夜空は平等じゃないじゃない
つらら つらら ほんとは泣きたいだけなんだ
レベルがあがった しののめが2さがった
あなたでよかった そんな折り返し
告白を奏でる かりそめの三拍子

先月号の
お気に入り
晩鐘の端で見つけたぐりとぐら
四ツ屋いずみ
ノイローゼになるくらい何度も読み聞かせた「ぐりとぐら」(笑) ミレーの名画にも幻影が見えるくらいに(笑)

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

三回忌星に電話をかけてみる
熱燭が寂しい人を待っている
これ以上以下でもないとかに風味
ぼつてりの背中の羽は閉じたまま
春を待つ膝が笑いをこらえている

先月号の
お気に入り
単細胞だった幸せだったのだ
安藤なみ
そうですね、幸せの条件だったんですね。

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

無人駅で美味しい蕎麦を茹でている
しもやけが自販機を抱く無人駅
雪野原 飲み込むものが何もない
裸の木が臍に炬燵を貼っている
負け癖がついて上手に歩けない

先月号の
お気に入り
種一つ見つからない自己肯定感
一帆
自分で自分を慰めてもねえ、

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

横やりをいれてきたので水をさす
じごくじとくにありましたおとし穴
さいきんはおどけてみせるねこやなぎ
黒ニンニクを探していますはぐれ鳥
冬至になって朝ねぼうなくなつた

先月号の
お気に入り

鎌の月になるのは見られたくないのよ
きささぎ彼句吾
宿命を感じました。

まき（ハ）【まきこ・青森県青森市】

鳥かごの中にあの日のふたり居る
観客はひとりもないワンマンショー
止まらない拍手主役はわたしです
生きざまはこんなもんです四股を踏み
省略をしながらこの世歩きます

先月号の
お気に入り

どっちつかずが私の今後を聞いてくる
そんなの無視無視ですね。
熊谷冬鼓

峯島 妙【みねしまたえ・大阪府大阪市】

初デート少し遅れていくルール
おそろく一勝五敗になるキミに
ここにいた記憶残しておく ずるい
面倒を煮込むつもりル・クルーゼ
アルバムのところどころにある余熱

先月号の
お気に入り

こんな小石に泣くな あたし
あかんたれな自分を奮い立たせて、さあ一緒に前を向き
ましよう。
一帆

むむし【むむし・青森県蓬田村】

ばあちゃんになってしまったちびまる子
写楽歌麿江戸の空から翔んで来い
青空を谷折りにした滑り台
外反母趾で扁平足の家系です
ポケットの奥からつかみ出すゴジラ

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

粉雪が始まりでした街明かり
記憶って粘着テープ剥がすよに
ハサミよりカッターよりも赤い爪
気前よく別れてあげるのも情け
スツキリと身軽になつて雪おんな

先月号の
お気に入り

シャーペンの芯はポキポキ負け惜しみ
すんなり認めましょう、苛立つだけです。
宮井いずみ

三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

入会をします「この世を語る会」
水の音するカッコいい別れ方
気まぐれな神 通り魔になるらしい
老化現象ですか あなたに被爆した
手の甲の皺から父が浮いてくる

先月号の
お気に入り

使ってますか？ **登録作品数 9 万句を突破！**

川柳データベース

<https://okajoki.com/db/>

現在の登録作品数: 88,641 作品

川柳データベース@okajoki

検索フォーム (クリックで開閉)

作品で検索 作者で検索 年月で検索 発表場面で検索

調査で検索 検索する

菜箸で突いて

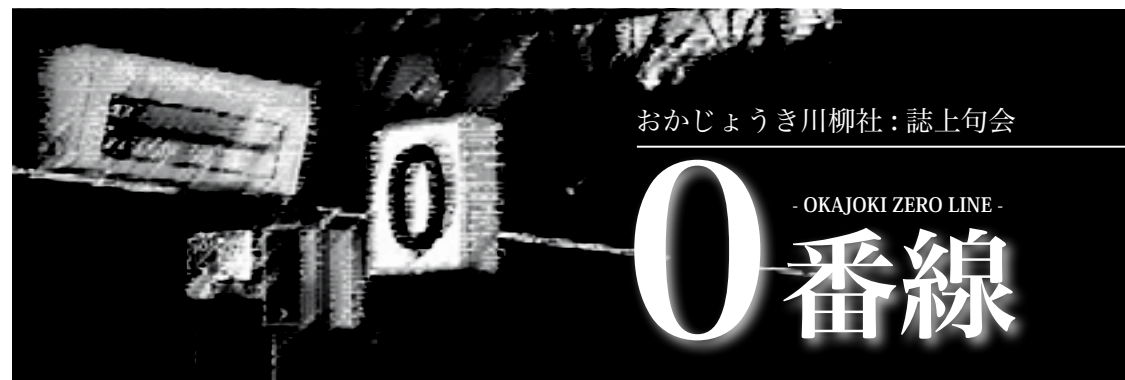
1月4日(土) 午後2時～ アウガ5階 小会議室

▼出席者(9名)

Sin・守田啓子・笹田隆志・夏草ふぶき・葉閑女・原口健二・むさし・熊谷冬鼓・境沢一千雄

▼投句者(21名)

嵯峨山登・安藤なみ・米山明日歌・芝岡かんえもん・郷田みや・柳本恵子・舟木小柳・宮井いずみ・峯島妙・村上あつこ・亥の一・須藤しんのすけ・戎 踊兵・高木まあこ・鳴海賢治・一帆・岩根彰子・まきこ・城後朱美・まみどり・坂本清乃



おかじょうき川柳社：誌上句会

0番線
- OKAJOKI ZERO LINE -

課題と選者(2句詠・共選)

題：『貸』

2/28 〆切

選者

佐渡真紀子 (秋田県)

むさし (青森県)

投句方法

※誠に申し訳ありませんが、郵送・FAXでの応募は受け付けておりません。

【ウェブサイトからの応募】

<http://okajoki.com/>へアクセスし、「投句する」→「0番線」を選び、作品応募フォームから必要事項を記入して送信してください。



【メールで直接送信】

メール本文内に「作品(2句まで)」「郵便番号」「住所」「氏名または雅号(ふりがな)」「電話番号」を明記し、件名に「0番線」として、**守田啓子宛**にメール送信してください。<送信先アドレス：moriko@okajoki.com>

投句料 (※おかじょうき川柳社会員は無料です。)

1,000円

◆振込先：郵便振替 No.02280-6-43112 口座名 おかじょうき川柳社

賞

特選の方に青森県特産品を贈呈。

席題『泊』

青森県外ヶ浜町 Sin 選

【佳作】

フルムーン我が家は二泊が限度です 原口健二
 せめて能登で夜を明かすことだけでもと 守田啓子
 連泊の言い訳しない留置場 笹田隆志
 外泊許可証転売します白雪姫 笹田隆志
 一夜だけ月に弟子入り申し込む 夏草ふぶき
 とぐろ巻く蛇が居坐る冬の湯治場 葉 閑女
 宿は梁山泊の床下でした 境沢一千雄

許可のない宿泊だった春の海

守田啓子

街角でヒグマが宿を探してる

むさし

言い分があると停泊中の影

夏草ふぶき

【秀逸】

影だけが入りしているラブホテル

むさし

車中泊にしようか星が降りそうだ

熊谷冬鼓

漂泊のかもめピアノを弾きたがる

守田啓子

【特選】

受信トレイは梁山泊になりました

むさし

♯男だけなのかな、「梁山泊」に憧れるのは。

席題『泊』

青森県三沢市 守田啓子選

【佳作】

青森に錨下して半世紀 原口健二
 影だけが入りしているラブホテル むさし
 おひとりさま気分で一泊だけの旅 葉 閑女
 連泊の言い訳しない留置場 笹田隆志
 車中泊にしようか星が降りそうだ 熊谷冬鼓
 外泊許可証転売します白雪姫 笹田隆志
 今回は零泊十日お茶無料 境沢一千雄

一夜だけ月に弟子入り申し込む

夏草ふぶき

言い分があると停泊中の影

夏草ふぶき

街角でヒグマが宿を探してる

むさし

【秀逸】

わたくしの変なところに泊まる舟

S i n

宿は梁山泊の床下でした

境沢一千雄

大雪の記憶を宿泊場所とする

S i n

【特選】

青春の青に延泊してしまう

S i n

♯それはもうずっと!!

宿題『高い』

青森県青森市 夏草ふぶき選

【佳作】

サビ抜きの人人生ハイジャンプがない
内側はシルク外側はカシミア
中指のてっぺんに積もる初雪
土踏まず浮かしてはるわ夜の工場
富士山も後期高齢なんだって
毛筆と和紙です意識高い系
足元は積乱雲のヤジロベイ
だつてだつて値の張るものが好きなのよ
前期高齢後期高齢南無阿弥陀
タワマンに蹂躪される富士見坂
トランプが地球に築く高い壁
雄たけびを上げて皆の雪捨て場
焦げた世界をたかいたかいたあやしてる
押し入れの一番上に営められる

亥のー
まみどり
安藤なみ
岩根彰子
むさし
熊谷冬鼓
戎 踊兵
まきこ
むさし
亥のー
原口健二
熊谷冬鼓
S i n
岩根彰子

いつだって知らぬ顔の月ばかり
プライドの高さビタミン欠乏症
山頂を目指し呼吸をしていない
断言をするため今日はハイヒール
プライドは横に並べてやりすぎす
地下壕を這って進むとハイになる

熊谷冬鼓
城後朱美
城後朱美
亥のー
坂本清乃
笹田隆志

【五客】

あと何里母なる山の高さまで
衝動の夫婦喧嘩は高くつく
ウソ泣きも高笑いもしてこの世
空っぽになれない高所恐怖症
物価高何度でも目玉とびだす

米山明日歌
舟木小柳
柳本恵子
郷田みや
芝岡かんえもん

【人位】

片想い成層圏で切りはなす

芝岡かんえもん

【地位】

言霊が高カロリーって知ってるか？

むさし

【天位】

ろくる首孤高の時をもてあます

米山明日歌

「ろくる首は何を待っていたのだろう。」

宿題『菜』

青森県蓬田村 むさし選

【佳作】

お椀から母が貌出す菜っ葉汁
菜の花畑で迷子になっちゃった
菜の花の迷路出られず男泣き
いじめにも気付かずに菜の花伸びる
大根と下ろし金との相関図
菜箸が雑味を摘み出していく
年明けてまだ青臭い干菜汁
菜箸の笑い上戸に負けちまう
探してる茹でた菜っ葉のような人
菜箸が恥ずかしそうな素振りする
菜飯炊く味噌田楽が飛んでくる
デパ地下の惣菜間にある覇権
干菜汁ばあちゃん霊降りてくる
秘湯めぐりハマる人なら白菜派

原口健二
村上あつこ
舟木小柳
守田啓子
熊谷冬鼓
夏草ふぶき
戎 踊兵
まきこ
夏草ふぶき
郷田みや
安藤なみ
峯島 妙
舟木小柳
宮井いずみ

菜切り庖丁歯こぼれて冬

柳本恵子

白菜に包まってる雪だるま

まみどり

罪状の余白に農薬散布する

S i n

ブルコリーの運命線がズレている

安藤なみ

塩漬けのお勧め野沢菜と月曜日

亥のー

野菜室に入れとく春のイントロ

須藤しんのすけ

【五客】

刻みネギたつぷり乗せて無人駅
千切りにされても言い張る冬キャベツ
雪室に笑う野菜は入れられない
指切りは根菜類として煮る
真夜中になれば吠えだす野菜くず

熊谷冬鼓
原口健二
戎 踊兵
S i n
葉 閑女

【人位】

赤いヒール捨てた青梗菜の脹ら脛

岩根彰子

【地位】

あなたとのすき間に芹を植えておく

守田啓子

【天位】

菜箸で突いて男より分ける

米山明日歌

「え！そつなの？」

宿題『自由詠』

青森県青森市 葉 閑女選

【佳作】

初売りで断捨離の素買いました
 痒いところありませんかと雪の白
 顔の無い肩に打たれた返り点
 雪だるま式に夕日が膨れてく
 モヤモヤを流雪溝に投げ捨てる
 「大丈夫」と嘘のつけない活断層
 平凡な日々でした玉手箱です
 かあさんの腕から延びる白い道
 寂しさを煮出したうま味調味料
 この世に未練は無いが生きている
 マイブーム終わる雨だけ残される
 空箱だって虹色だもの捨てられぬ
 これからは引き算だけの高齢期
 みぞれ降る音読つづくまだこの世

亥の 一
 熊谷冬鼓
 戎 踊兵
 S i n
 原口健二
 笹田隆志
 鳴海賢治
 高木まあこ
 夏草ふぶき
 村上あつこ
 宮井いずみ
 高木まあこ
 村上あつこ
 坂本清乃

十和田たてがみ川柳会十二月句会

○日時 12月21日(土)

○会場 十和田労働福祉会館

○参加者 木村奈生美・久保あざみ・佐藤まさあき・

白山修治・瀧尻善英・福田芳記・村上昌子・高

田幸柳

○投句者 磯島雅男・城後朱美・斉藤蛙井

■席題『利口』 木村奈生美選

【平抜き】

あつさりとした引き際が利口かも
 小利口な議員ばかりで国すたれ
 としよつたら少し利口になれればと
 利口着て親戚巡る幼い日
 「お利口さん」言われ胸張る3歳児
 利口者子離れしない親と居る
 利口な子目つきを見れば光ってる
 お利口と言われて祖母の言うがまま

瀧尻善英
 福田芳記
 白山修治
 村上昌子
 佐藤まさあき
 高田幸柳
 福田芳記
 村上昌子

【秀逸】

セリナズナ清少納言の膝のこと
 土器再生 同じ話を繰り返す
 その君過去を傷めてどうする気
 グーグルマップに映る変形股関節
 この指が地獄の恋に触れたがる
 毒蛇に分類したい配偶者

守田啓子
 戎 踊兵
 米山明日歌
 む さ し
 峯島 妙
 舟木小柳

【五客】

幸せなことです雪かきができる
 念のため包み直しておく昨日
 さつきまで忍者でしたの悪しからず
 ミサイルの下でするゴミの分別
 天国の小さな部屋を予約する

まみどり
 郷田みや
 ま き こ
 安藤なみ
 ま き こ
 む さ し

【人位】

どこまでも青年でいるはずでした

む さ し

【地位】

ピロシキの不味いロシアを許さない

須藤しんのすけ

【天位】

くさかんむり磨いて春を待っている

守田啓子

♪春を待つ思いに共感！

目覚めたねお利口さんの殻を捨て
 残照へ明日は利口にきつとなる

村上昌子
 瀧尻善英

【特選】

小利口で仲間内から嫌われる

佐藤まさあき

■席題『利口』

瀧尻善英選

【平抜き】

ハチ公と名付けた子犬お利口に
 小利口で仲間内から嫌われる
 小利口な議員ばかりで国すたれ
 「お利口さん」言われ胸張る3歳児
 世渡りの橋で覚えた利口の字
 愛犬は玄関で待つ朝散歩
 お利口と言われて祖母の言うがまま
 要領の良い若い手に無駄が無い
 【秀逸】
 賢さで生きる姿勢に明日が有る
 利口な子目つきを見れば光ってる
 【特選】
 その昔目から鼻へと言われてた

高田幸柳
 佐藤まさあき
 福田芳記
 佐藤まさあき
 木村奈生美
 久保あざみ
 村上昌子
 木村奈生美
 木村奈生美
 福田芳記
 佐藤まさあき

■宿題『立派』

村上昌子選

【平抜き】

過疎の村立派な地蔵は守り神
 挨拶は立派態度は横柄で
 肩書を並べ立派な名刺入れ
 外見が立派な人も嘘をつく
 激動を立派に生きた故父でした
 肩書で俺が俺がは地に落ちる
 短めの祝辞立派な贈り物
 オタクでもスペシャリストと呼ばれてる
 気合だけ立派に見せる空威張り
 住む人はともあれ立派な門構え
 成し遂げた努力報われ胸を張る
 政治家の挨拶だけは立派です

【秀逸】

八十才全部そろった自分の齒
 黙々と雪かきをする通学路

【特選】
 弁解も自慢もせずに積んだ徳

齊藤蛙井
 高田幸柳
 城後朱美
 城後朱美
 高田幸柳
 久保あざみ
 磯島雅男
 瀧尻善英
 瀧尻善英
 木村奈生美
 佐藤まさあき
 白山修治
 高田幸柳
 福田芳記
 久保あざみ
 瀧尻善英

■宿題『リセット』

瀧尻善英代選

【平抜き】

詠んだ句を無くし一からさあやるぞ
 悔いたとて過去は消せない今生きる
 トランプのリセットで世は迷い路
 世渡りが下手でリセットしてみるか
 リセットをしたが復活できぬまま
 もう10年若かりやリセットできたのに
 温泉で気持ちリセットいい湯だな
 リセットをして人生を組み直す
 癒し風能登に吹いてと暦替え
 旅先でリセット貰う生きる知恵
 リセットをしてプログラム立て直す
 リセットを押したつもりが全消去

【秀逸】

整形をしてもリセットなど出来ぬ
 リセットは最後の手だと決めている

【特選】
 リセットは口角ニミリ上げるだけ

村上昌子
 村上昌子
 福田芳記
 福田芳記
 高田幸柳
 高田幸柳
 佐藤まさあき
 福田芳記
 木村奈生美
 村上昌子
 木村奈生美
 磯島雅男
 高田幸柳
 高田幸柳
 高田幸柳
 高田幸柳
 村上昌子

■宿題『リストラ』

互選

- ①リストラかカラス一緒に泣いてくれ
- ①リストラで知的財産垂れ流す
- ①リストラの宣言までは窓際へ
- ③花を切るようにチョコキンと首切られ
- ④世渡りが上手くリストラ通り過ぎ
- ⑥リストラに耐える孤独のど真ん中

齊藤蛙井
 磯島雅男
 高田幸柳
 瀧尻善英
 佐藤まさあき
 木村奈生美

◆十和田たてがみ川柳会2月句会案内◆

【時】2月15日(土) 午前10時から 【所】十和田労働福祉会館【宿題】(各題三句詠)『連続』高田幸柳選/『レジ』木村奈生美選【互選】(一句詠)『冷蔵庫』当日出席者のみ(句せんの裏に柳号記入)【席題】『当日発表』(三句詠・共選)選者は、瀧尻善英ほか出席者から一名【投句先】〒034-0212 十和田市米田字桜平72 高田幸柳宛



―参加者募集―

川柳吟行会「ぽ」

課題「駅」

二十年ちよつと前のこと、Z賞作家たちの好きだと言う俳句作家の作品を読んできた。驚いた、現代川柳の先頭を走っていると思っていた作品は、強く俳句の影響を受けていた。聞いた事も無い言葉は、古い季語で日常では使われない言葉だった。新しい感覚や発想だと思っていたのは、単に自分の知識の無さによるものだと知った。平易な日常使いの言葉で、喜怒哀楽、出来れば喜と楽を感じる川柳を書きたい。そう思つて挫折して、今は書きたいように書いている。

(戒踊兵)

【13点】特×5・佳×3

通過駅それは見事なアワダチソウ 熊谷冬鼓

【州花】福島のアワダチソウを思った。線量計が立ち並び人の住めない町のそれは見事なアワダチソウ。【こあき】合評のおかげでこの句の良さがわかりました。通過駅、人生の通過駅でしょうか。見事なアワダチソウがいい。【文音】光の屈折やアワダチソウの反射などそれは見事な自分の人生の通過駅だったと詩っている【さち】降り立つことがなかった駅の、鮮やかなアワダチソウの群落。あこがれ・悔恨、忘れられない日々のこと、すべて通過駅。【かなえ】アワダチソウの黄色がパツと目に入った。佻し気な通過駅が、アワダチソウで華やいだ

【10点】特×4・佳×2

存分に駅したわ ひらひらと舞う 守田啓子

【与生】旅の終わりに、いろいろな想いをすべて肯定して「ひらひらと舞う」のがいい。そういう終わり方でありたいもの。ぽの会、長い間お疲れさまでした。みんなでひらひらと舞いましょう。【まあこ】作者の自分の来し方への万感の思いとこれからはひらひら舞いたいという爽やかな境地を感じる。【冬鼓】これまで駅的な役割を十分してきたという自負。これからはと思う作者の伸びやかな心情をうまく表現。【いずみ】仕事、家のこと、祖母や親の看取りなど存分にやってきた。リタイヤした今、人の評価を気にすることなく、好きなことを好きなようにできる。はじめ「駅した」と「舞う」の動詞がふたつあることが気になったが、これはこれでいいのかと思えてきた。【州花】心おきなくひらひらなさいませ。【柳本恵子】ご自分の気持ちの決意がよく解りました

【7点】特×3・佳×1

臍までは残り何駅なんだろう 月波与生

【達雄】母体回帰願望だろう。読者を悲哀・詩情へ誘おうというあざとさが無い。的確でやさしい言葉の句。【五郎】意表をつく組み合わせに立ち止まる。【ふぶき】臍

一瞬に見たものは、過ぎし日々の走馬灯かもしれない。【妙】通過駅の淋しさをサクッと切り取っています。【達雄】見事な、という諧謔。征服・占拠に近い状態。【いずみ】越し方を振り返るとアワダチソウ満開（華やかでわくわくすること）を通過してしまつたこともあつた。句の仕立てがうまい。

【11点】特×3・佳×5

駅だつた谷川俊太郎だつた 月波与生

【善江】谷川俊太郎さんは戦後代表する詩人でした。響きやイメージで現実の手触りを表した言葉の魔術師。【吉見恵子】国民的詩人谷川俊太郎は、作者にとつて詩への出発駅だつたんですね。【啓子】谷川俊太郎は親しみやすい詩で知られる。だつただつた構文はよくあるが駅と谷川俊太郎の距離がいい。【州花】マザーグース、佐野洋子、私にとつての駅。【冬鼓】「駅だつた」で、この詩人の存在の大きさを感じさせる。追悼句のよう。【かなえ】言われてみれば、私にとつて谷川俊太郎は、さしずめ渋谷駅みたいだなと思つた。【ふぶき】谷川俊太郎さんが亡くなつたばかりなのでタイムリーな句だと思ひます。この人にとつては谷川さんから節目節目に何かを得ていたのだらうか。【隆志】ありし日の谷川さんを、二度送迎した日を思い出した。

までの距離は、先祖との繋がりのことだろうか。駅の題で臍を持ってくる発想がすごいと思いました。【隆志】人間の誕生までを駅で表現するなんてすばらしい発想。

【6点】特×1・佳×4

故郷の駅はいつでも15歳

岩根彰子

【隆志】15歳といえば、中学三年多感な時代で、青春時代の始まりでもあります。故郷の駅を自分の人生の思い出を重ねたのは、さすがです。【こあき】15歳で故郷を出た作者は故郷の駅でいつでも15歳に戻る。【啓子】共感の1句 その駅は私を15歳にしてくれる。【ふぶき】最初はこの人が駅に行くと15歳だった自分を懐かしむのかと思ったけど、変化のない駅のことを15歳のままと言っているのかな。【さち】華やかな旅立ちではなく、生家から自立した日の遠い記憶だ。

【4点】特×1・佳×2

無人駅今日のワタシを置いていく

高木まあこ

【踊兵】これは多分不法投棄じゃないかな【朱美】無人駅にぽつんと残される自分を想像します。【柳本恵子】ひとりになりたい時もあるんです

【柳本恵子】雪の日の決意が素敵です

駅ピアノ想い指から零れます

高木まあこ

【朱美】駅ピアノには、その人の人生がある。ドラマがある。さらにピアノを弾く人に私は憧れる。

【2点】佳×2

変わりようの無い駅だった無くなった 戎 踊兵

【写生】弘南鉄道大鰐線の実質廃線が決まった。駅が寂れ街が寂れ人が寂れるだろう。【さち】無くなったは亡くなった人への追憶で思慕だろうか。

雪を掃く幸福駅のマイホーム

福田文音

【吉見恵子】マイホームを幸福駅としたところに家庭への思いが伝わってきた。【規子】何処に出掛けて楽しんでも最後は地元に戻って来た時一番ほっとする。幸福駅がいい。

わたくしが駅形で父を待つ

守田啓子

【善江】じーんとくるシーンです【達雄】駅だった父を

【4点】佳×4

体の中を駅が通り過ぎて行く

小野五郎

【朱美】列車ではなく、駅が通り過ぎる所に惚れました。【文音】この冬の鍋を食べている。一人鍋だろうか。【いずみ】天動説のような表現が意表をつく。一抹の淋しさも感じられる。【かなえ】「旅に病んで夢は枯野をかけめぐる 松尾芭蕉」の俳句が浮かんだ。

【2点】特×1

雪原にぽつんと灯りきみは駅

宮井いずみ

【規子】私の事を雪の中で待つてくれるのはこれまでの人生で母だけである。他に誰か一人そんな人がいて欲しかったがそんな出逢いがなまま終わりそうである。また、私自身が誰かのそんな「君」にもなれなかった。

「ちゃんと立で」叱られながら食べた蕎麦

村井規子

【妙】何故かドラマ「北の国からの」の「まだ子どもが食べてるでしょ！」みたいなシーンを思い出します。どちらも凍れます

この駅と決めた日 雪のきらつきら

熊谷冬鼓

今は駅の形で待っている。見習いたい。

ハネムーン終着駅が見つからない

笹田隆志

【五郎】そういうことか。納得。【踊兵】羨ましい

【1点】佳×1

まんじりと母が待ってる駅がある
逝くきみはサウザンクロス
の星の駅

城後朱美
吉見恵子

若い日に戻ってみたい通過駅
買い物へ最寄りの駅を連れて行く
連れ合いを無人駅で見失う

滋野さち
夏草ふぶき
笹田隆志

ホグワーツ行きのホームはどこですか
See you later 駅もあなたも微笑んで

渡邊こあき
笹田かなえ

「お帰り」と夕陽が沈む無人駅

吉見恵子

次々と改札通るサンタクロース

小野善江

アルバムの各駅停車過去へ過去へと

吉田州花

これからはどうして行こう弘前へ

村井規子

汽笛からプラネタリウムが降りそそぐ
ともすればスノードームの駅にゐる

夏草ふぶき
笹田かなえ

句先まで問合せ下さい 【主催】京都みんなの川柳誌上大会実行委員会【共催】京都川柳作家協会【後援】京都府・(公社)福知山市文化協会・京都新聞

□ **2025.04.20 第2回 あおもり春の川柳まつり**

【日時】2025年4月20日(日)12時受付/席題発表12時30分/投句締切13時30分【会場】ねぶたの家ワ・ラッセ(青森駅横)【会費】1,000円(発表誌を含む)※大学生以下無料・懇親会なし【披講】司会・北山まみどり/文台・守田啓子・滋野さち【席題と選者】1題2句詠/披講14時30分『』2人選(選者は当日参加者に依頼)【宿題と選者】2句詠 ※投句拝辞『進む』にじの真美選/『たっぷり』大黒屋サチエ選/『新聞』新聞記者A選★第1回川柳まつり大賞『自由吟(雑詠)』2句詠/吉見恵子・きさらぎ彼吾吾・柳谷たかお共選 ※大賞は3人の特選から瀧尻善英・むさし・千島鉄男の二次選考で決定【賞】★各特選作品・川柳まつり大賞に呈賞 ★ユーモア賞(当日の入選全句より、高瀬霜石選で数句に呈賞、発表誌にて発表)【問合せ】青森県川柳連盟事務局 濱山(Tel 080-5574-9297)

□ **2025.04.30 第14回東北川柳文学大賞募集**

【応募資格】東北6県の在住者(災害による避難先は可)【応募用紙】専用の応募用紙(コピー可)。またはA4判の原稿用紙に縦書き。その際冒頭にタイトル・未発表作品10句・郵便番号と住所・柳号(氏名)・電話・所属結社の順で明記。※用紙必要な方は事務局に連絡してください。【応募料】1篇¥1,000(複数応募可)現金・郵便小為替※会報の送付を以って領収書に替えさせていただきます。なお応募時に大賞受賞者句集の購入予約(句集予約と添書きし1冊につき¥1,200同封)をいただくと送料無料とします。【締切】2025年4月30日(消印有効)【選者】梅崎流青(福岡)・齊藤由紀子(東京)・野沢省悟(青森)・長谷川酔月(秋田)・熊谷岳朗(岩手)・片倉卯月(山形)・駒木香苑(福島)・雫石隆子(宮城)・【賞】大賞～賞状、記念品、副賞として川柳句集の無料発行権と100冊を授与。【発表】2025年6月中旬予定(受賞者へ連絡)【表彰】7月13日(火)※予定【応募先】〒981-0134 宮城県宮城郡利府町しらかし台3丁目4-9 堀之内稔夫 宛(東北川柳文学大賞係)Tel 022-356-7346【主催】東北川柳連盟【事務局】宮城県川柳連盟

川柳の情報をお待ちしております。

□ **2025.03.15 『らくだ忌』第4回川柳大会**

【とき】2025年3月15日(土)開場:10時30分/投句締切:11時30分/披講開始:13時30分 ※昼食は各自でお済ませください【ところ】クロスバル高槻・8階イベントホール(高槻市立総合市民交流センター)Tel 072-685-3721 JR高槻駅徒歩4分【兼題・選者】(各題2句)※欠席投句拝受「夢十夜」藤田めぐみ選(東京) / 「くしゃみ」真島涼選(佐賀) / 「五分前」川合大祐選(長野) / 「ひと塩」前中知栄選(京都) / 「ひょいと」石橋芳山選(島根) / 「濡れた靴」中野六助選(京都) / 「雑詠」くんじろう選(大阪)【事前投句兼題・選者】「ざっくばらん」1句 兵頭全郎選(大阪)【事前投句・欠席投句締切】2025年2月17日(月)※当日消印有効【参加費】2,000円【懇親会】「炭撰屋(たんとや)」6,000円(先着順50名様まで)※席数に限りがございます。お早めにご予約下さい。※披講順等 大会当日に変更する場合も ございますので予めご了承ください。■参加費のお支払方法について 当日大会にご出席される方は 当日参加費をお支払いください。(参加費2,000円)事前投句料は無料です。■欠席投句で参加される方 欠席投句・事前投句とも 2,000円を次の方法でご送金ください。「手渡」らくだ句会・例会で受付 / 「郵送」事務局宛に定額小為替または現金(切手不可) / 「振込」ゆうちょ銀行(店名)448 / (預金種目)普通預金 / (口座番号)2865976 / (口座名)川柳結社ふらすこてん■事前投句・欠席投句の方法 投句用紙あり(コピー可) / ご投句は封書のみ、メール・FAX等でのご投句はお受けできません。ご了承ください。【送り先・問合せ】「らくだ忌」第4回川柳大会実行委員会(川柳らくだ事務局)〒567-0057 大阪府茨木市豊川1-17-6 森茂俊 内 ※お問い合わせでお急ぎの方 くんじろうスマホ 090-5125-7905

□ **2025.03.31 京都みんなの川柳誌上大会**

【宿題】各題2句(未発表句に限る)『落ちる』峯島妙(前年度優勝者・大阪)・中野六助(京都)共選 / 『手帳』藤井智史(岡山)・伊藤寿子(北海道)共選 / 『自由吟』新家完司(鳥取)【『投句締切』令和7年3月31日(月)必着【投句用紙】規定投句用紙あり・コピー可【投句料】1000円(定額小為替または現金、切手不可)【発表】6月に作品集を郵送【賞】各題特選句と秀句2句に呈賞。成績を合点し上位から誌上大会実行委員会大賞・誌上大会実行委員会準賞・福知山市文化協会長賞・京都新聞賞・京都川柳作家協会会長賞・優秀賞を贈呈【投句先】〒610-0102 京都府城陽市久世上大谷80-14 木口雅裕方 京都みんなの川柳誌上大会事務局あて Tel 090-9863-1251【問合せ先】投

■会費拝受【12月受付分】 ※太字は新会員

一帆・斎藤泰子(以上秋田県)/小野五郎・葉閑女・熊谷冬鼓・原口健二・笹田隆志・きさらぎ彼句吾・須藤しんのすけ・田中薫・守田啓子・高木まあこ・Sin・むさし・坂本清乃・菊池京・夏草ふぶぎ・滋野さち・村上あつこ・亥の一・吉見恵子・境沢一千雄・まきこ・鳴海賢治(以上青森県)/安藤なみ・瀧村小奈生(以上愛知県)/郷田みや(愛媛県)/宮井いずみ・峯島妙(以上大阪府)/城後朱美(福岡県)/奥田悦生(三重県)/柳本恵子(奈良県)/米山明日歌(静岡県)/藤田めぐみ(東京都)/真島久美子(佐賀県)/芝岡かんえもん(神奈川県)

おかじょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

終着駅 Sin

◆紙での発行が終わり、今号から電子だけの発行が始まった。1月17日にアップされた川柳アンジェリカのラジオにゲスト出演した際に、その背景を少し話させていただいた。まだ聞いてない方はぜひ。<https://www.senryu-angelica.com/podcast/episode/3a6478e2/49-vol2sin> ◆ただ説明し足りないこともあって、少しここで補足しようと思う◆もともと、どこの柳誌も本音を言えば日本中、全員に読んで欲しいはずだ。もし私がイーロン・マスク並みの財力があれば、日本国民全員に「月刊おかじょうき」を毎月配るだろう。まあ、そんなことは到底無理で、本を製作する費用を会員に負担してもらって、その人たちに送付するというシステムが至極当たり前で、日本に印刷術が伝来した16世紀からの当然のシステムといえる。電子書籍が普及している現在といえど、商業誌ではそんな感覚で購読している人も多いだろう。ただ、我々は商売をしているわけで

はない。冊子で儲けることより、川柳を普及させることのほうに価値がある。なのであれば柳誌は無料で誰でも読めるほうがいい。では、会員は何のために年会費を払うのか。これまでの固定概念をアップデートし、本の制作費の負担ではなく、自分の川柳作品が全世界誰でも読める媒体に掲載されるという価値観にお金を払っていただくようにシフトしたということである。もちろん、作品をウェブページに掲載すれば同じことだが、冊子の体裁を保ったまま、閲覧できることにどれだけ効果があるのか、半ば実験的な試みでもある。どんなカッコイイ立派な冊子を作ろうが、紙で発行している以上、お金が無ければ全員には届かないのだから◆たぶん、50年後の川柳史には「今では当たり前のことだが、この頃「月刊おかじょうき」が日本で初めての柳誌の無料閲覧を始めた」と書き記されることだろう。ガリレオの「それでも地球は回っている」のように(笑) ◆Sin

おかじょうき川柳社 作品募集案内

□ 2025.02.08 おかじょうき川柳社本社 2月句会

【日時】2月8日(㊟第2土) 午後2時~【所】アウガ5階企画ワーク室③④【投句締切】2月7日(金)15時【宿題】(各題3句詠)『尖る』『煮』『自由詠』【席題】1題3句詠・2人共選。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選句『トランプ』1句【ウェブサイトから投句】<http://www.okajoki.com/>【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2024.2.20 おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句(4月号分)

【締切】2月20日必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】4/10発行号【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/>【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2025.03.01 おかじょうき川柳社本社 3月句会

【日時】3月1日(土) 午後2時~【所】アウガ5階小会議室(【投句締切】2月28日(金)15時【宿題】(各題3句詠)『長い』『抜』『自由詠』【席題】1題3句詠・2人共選。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選句『缶詰』1句【ウェブサイトから投句】<http://www.okajoki.com/>【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2024.3.20 おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句(5月号分)

【締切】3月20日必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】5/1発行号【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/>【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

